

海外事務所
だより

韓国
の日本酒の流通事情
——急速にシェアを伸ばす日本酒の可能性

ソウル事務所 所長補佐 福増 伸一 (愛媛県派遣)

ソウル事務所

韓国 酒文化のイメージ？

韓国というと、酒文化、焼酎^{ソジュ}文化を連想される方も少なくないのではないのでしょうか。確かに、WHOの統計を見ても、韓国人一人当たりのアルコール消費量は高く、中でも焼酎、ウイスキーなどのアルコール度数の高い酒類の消費量はOECD加盟国二〇カ国の中では第一位、世界でも第四位になっています。特に、韓国の場合、全体のアルコール消費量のうち六割以上をアルコール度数の高い焼酎から摂取しているとのこと。このように、韓国では、韓国焼酎^{ソジュ}を中心とする酒文化が発達しており、焼酎^{ソジュ}の消費量は日本と比べても圧倒的に多いようです。一方、最近の韓国の酒類の消費の傾向としては、女性飲酒人口の増加、家庭での低アルコール酒類の消費増加などから、低アル

コール焼酎とビールの消費量は上昇傾向にあります。また、ワインや日本酒などの外国酒の消費量も増加しており、多様な酒類が消費されるようになってきているのが韓国の酒市場の現状といえます。

(注1) 韓国の焼酎の大部分は希釈式焼酎である。希釈式焼酎とは、高濃度のアルコール(九五度)・酒精を水で薄め(加水調整、度数を低くし(約二〇度)、その他添加(深層水、天然水、オリゴ糖、竹エキスなど)したものを指す。

外国酒の人気の上昇
↓ワインブームと日本酒ブーム

韓国では、健康ブームからワインブームが起こり、特に輸入ワインは消費市場全体の約八割のシェアを占めており、毎年輸入量は増加しています。二〇〇六年の韓国のワイン消費量は二〇〇二年対比で一・六倍増加して

おり、ウェルビーイング(健康)イメージによる効果を受けて、今後も消費が伸びてい

くと思われます。

日本酒は、一九九四年一月に韓国への輸入が開放されて以来、堅調な増加を続けていきましたが、特に二〇〇四年からは急激な増加傾向にあります。韓国への日本酒の輸入量は二〇〇七年には二七五tと二〇〇五年の五二六tの二倍以上となっており、日本からの輸出先としてもアメリカ、台湾に次いで韓国は第三位となっています。このような日本酒ブームとも呼べる現象が起きている原因として、日本式居酒屋や日本食専門飲食店の増加による韓国の消費者が日本酒に触れる機会の増加(注2)、日本への観光客の増加による日本への関心の高まり(注3)などが考えられます。

(注2) 韓国では、日本料理店や日本風居酒屋は、韓国料理屋、中華料理屋などに比べて利益率が高いため、店舗が増加傾向にある。近年はこういった店舗が韓国に定着したこと味などのクオリティも安定してきている。

(注3) この数年で、韓国から日本への訪問者数は倍増(二〇〇一年:二七万人→二〇〇八年:二六二万人)しており、日韓の観

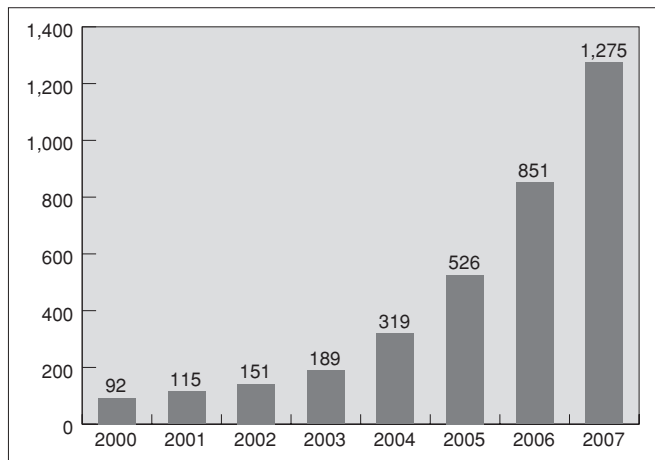
光による交流人口は五〇〇万人を突破している。

韓国での日本酒の流通構造について

韓国では、法律により、販売チャネルごとに免許制度を採用しているため、酒の輸入販売を行う酒類輸入業免許のほか、酒類卸売業免許、酒類小売業免許といった酒類販売業免許が流通段階ごとに必要になります。

酒類の輸入業免許を取得し活動している業者のうち、日本酒の輸入業者は二〇社程度あり、そのうち三社が全体の約八割程度

表1：韓国の日本酒輸入の推移（単位：t）



(参照) 韓国貿易協会の統計より引用。

のシェアを占めています。日本酒を輸入するための免許の取得には、資本金(個人の場合は資産評価額)五〇〇〇万ウォン以上を有すること、倉庫面積として六六㎡以上を有すること、酒類輸入業を専業とすること、といった条件があるため、誰でも容易に免許を取得して日本酒を輸入取り引きできる環境であるとはいえないのが現状です。

このように酒類の販売にはそれぞれ免許が必要になりますが、例えば酒類輸入業の免許を持つ業者が輸入した酒類の小売販売をすることは禁じられており、逆に酒の小売業免許を持つ業者は直接輸入取引を直接行うことができないため、日本酒の流通には、輸入業者(↓卸業者)↓小売業者↓消費者という流通構造をとります(注4)。また、日本酒の輸入に当たり、日本での販売価格に関税、酒税(注5)、教育税、付加価値税が価格の七割程度課税され、さらに韓国への輸送料、輸入業者、卸業者、小売業者の各段階でのマージンも付加されるため、消費者の手に渡る段階になると日本酒の価格は日本での価格と比較して少なくとも二倍以上になっています。

(注4) 酒類の輸入業者は小売販売を直接行うことができないため、普通、小売業(百貨店、スーパーなど)へ卸すか、酒類卸売業者に卸すかの方法で流通ルートに流している。
(注5) 日本酒の輸入にかかる酒税は三〇%。一方で日本焼酎にかかる酒税は七二%と高く、そのため日本酒に比べ韓国では価格競争力は弱い。そのため日本の焼酎は日本からの輸入量も日本酒に比べて少なく、品ぞろえのために店頭で置く程度である。



↑昨年10月の日本酒・和食推進事業では120銘柄の全国の地酒を出展

今後の韓国での日本酒の流通について

日本酒の金額が高くなっている一因である流通構造について前述しましたが、実際に流通業者に話を聞いたところ、輸入業者などの卸売業者よりも最終の小売業者の段階で利益を多く付加しており、その結果金額が高くなっているとのことでした(中には店頭価格が日本の販売価格の五倍以上になっているケースもあるようです)。この背景には、「日本酒＝高級」のイメージが強く、そのため小売の段階で大幅に利益を上乗せした価格で売り出しても一定量は売れるためであろうと考えられます。

実際に、韓国の焼酎と比べてみると、価格の差は歴然で(注6)、日本酒が韓国でより流通していくためには、価格競争力以外の魅力が必要であるのは確かであるといえるでしょう。しかし、現状の小売価格を見ると、ま

ず金額の高さに問題があるため、今後より広く流通するためには、価格の低下、「日本酒」高級→高価「以外のイメージの普及(健康)」、日本食との相性のよさなど、日本酒自体の味のよさの浸透、より豊富な種類の日本酒の流通が鍵となると考えます。

韓国での和食の普及、日本酒の輸入量の増加といった現状を受けて、昨年一〇月の二日から二四日にかけて、大使館主催で日本酒・和食推進事業が開催された際には、日本各地から二〇を超える銘柄の地酒が出展されました(そのうち半数近くの五〇銘柄はクリアソウル事務所と自治体を経由して全国の酒造会社から申し込みがありました)。韓国において毎年輸入量を伸ばしている日本酒は今後のさらなる成長が期待できるため、日本食品と日本酒の有望市場の可能性を持つ韓国への輸出の促進を図ること等を目的とした標記事業の実施は非常に有益であること、日本酒は全国の各地域の中小の酒造会社で生産されている地酒も多くあるため、このような機会を活用し、全国各地の地酒を韓国に紹介することで、韓国での日本酒のさらなる知名度を高め、広く関心を集めることが可能であるとともに、地酒を提供する酒造会社においても、販路を

拡大するよい機会となり、それはひいては各地域の経済の活性化につながるという認識のもと、クリアソウル事務所としても積極的に参加しました。

イベント当日には日本酒の取引に関心を持つ流通業者をはじめとする各業界から多数の参加があり、その参加者数や多数の日韓のメディアの取材からも、和食や日本酒にスポットを当てた事業への関心の高さがうかがわれました。このような事業が大きな注目を集め、成功裏に終わったことから、韓国の酒市場への今後のより大きな規模での日本酒の進出の可能性の高さを手応えとして感じることができました。そのため、今後は、日本酒の取引に関心を持つ韓国の流通業者と、日本酒を韓国に輸出したい日本



↑昨年10月の日本酒・和食推進事業での試飲の様子

酒の酒蔵とのマッチングの可能性を広げるため、さまざまな形で支援していくほか、日本酒の高級感以外のよいイメージを浸透させることで、一過性のブームにとどまらず、また、非常に高価で希少な日本酒ではなく適正な価格での日本酒の流通の拡大につなげることもできるのではないかと考えられます。

(注6) 韓国の有名な焼酎である眞露の「チャミスル」の市場価格は一本(三六〇ml)で二〇〇ウォン程度。また、韓国のビールは日本のビールと比較して半額程度で販売されている。
※一韓国ウォン≒約〇・〇六九円(二〇〇九年一月一日現在)

おわりに

前述の日本酒・和食推進事業において、日本各地の地酒が高く関心を集めたということとは、すなわち、日本全国の各地域の中小の会社で生産されているよい製品が、ルートと情報があれば日本国内だけでなく韓国のような海外においても流通できる可能性を持つていることを改めて認識させられる機会にもなったと思われま。実際に、まだ少数ですが、韓国内の流通業者と日本の地方の練り物会社が直取引で商品を日本から輸出しているというケースも出てきており、こういった日本の製品の海外輸出のルートへの需要があることが分かります。今後の国、自治体の役割として、日本の各地の地域経済の活性化にも大きく貢献できる、地元の商品の海外販路を開拓する道をつくれるよう、さまざまな形でバックアップする事業が求められているのではないのでしょうか。

海外生活 だより

ソウル事務所

ソウルでの医療体験

ソウル事務所次長 岩下 久展（鳥取県派遣）

私はソウル事務所で所長補佐として二年、次長として二年、計四年間勤務しましたが、その間、ソウルの病院や救急車に何度かお世話になりました。日本からソウルへ旅行や出張で来る方はそのような機会がないのが普通ですが、万一の時、どのように救急搬送されるのか。どのようなレベルの治療を受けるのか。治療費はどれくらい請求されるのかといった点については誰でも漠然と不安を持って渡航されるのではないかと思います。今回は私の経験を紹介することで、お役に立てればと思います。

病院

私の住んでいる地区は日本人学校のスクールバスの起点となっていることもあり、日本人が多く住んでいて、日本語の通じる内科

小児科医院が集まっています。そのような小さな医院でも診察しながら医者が電子カルテをカチャカチャと打ち込んでいて、「やはり韓国はIT大国だ」と感心させられます。風邪などで診察してもらった後は、近隣の希望する薬局にメールやファクシミリで処方箋を送ってくれるので、帰り道の薬局で薬を受け取ります。

去年の九月にはわが家の六歳の娘が四〇度以上の熱を三日間続けて出したので、近所の小児科医院での治療をあきらめ、タクシーで総合病院の夜間救急に連れて行きました。やはり大きな病院で検査してもらおうと安心です。設備も立派で（検査機器などは日本製が大多数）、医者も親切で大満足でした。その時は救急でしたので、海外傷害保険のキャッシュレス扱いができません、日本円換算で約五万円を請求されました（救急扱

いは通常時よりかなり高いです）。内訳は検査代金二万七〇〇〇円、救急手数料五〇〇〇円、注射と薬代四〇〇〇円、診察料その他二万四〇〇〇円でした。手持ち現金がそれほどなかったので一瞬困りましたが、カード社会の韓国ではカード払いは問題なしでした。



↑江南聖母病院

後から分かったのですが、通常診療時間帯には病院内の外国人支援室が日本語通訳や海外傷害保険のキャッシュレス支払い受付も行っているとのこと。私が利用したのは「江南聖母病院」ですが、韓国内にたくさんある「サムソン病院」や「各大学病院」などにも外国人向けサービスがあります。一般旅行者もソウルでもしもの時には頼りになる施設です。

救急車

私が所長補佐だった時の話なので古い体験ですが、事務所のレクリエーション事業でソウル日本人会主催のソフトボール大会に参加していた時のこと。クレアチームに助っ人として出場してもらっていたある県のソウル事務所の所長が一塁へ疾走中、守備と衝突してアゴがパッキリと切れてしまいました。

た。結局、アゴを二針縫う大ケガを負ってしまったのですが、その時初めて救急車を呼ぶという体験をしました（ちなみに日本と同じ一九です）。日本では通報から現場到着まで平均七分ということですが、二分たつても来ません。そうこうしているうちにわが家の二歳だった息子も応援スタンドから転落して頭から流血してしまいました（三針縫うケガ）。その後やってきた救急車に二人とも搬送されていきました。救命士さんは日本と同じくテキパキとして信頼できましたが、なにぶん来るのが遅い！遅い原因はその後、程なく分かりました。韓国では日本ほどほかの車が救急車に道を譲りません。渋滞に遭うと相当到着が遅れるので、タクシーで病院に行ったほうが早いかもしれません。

薬と注射

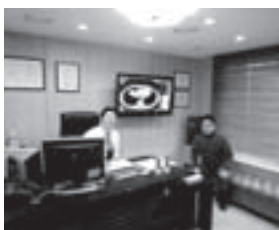
韓国の薬はスゴイです。何がスゴイかと言うと、「効き目」と「副作用」です。鼻水が出ると言って近所の医院で診てもらって薬を飲むと、鼻の中がカラカラになるほど効きます。

先日は妻がインフルエンザの診断を受け、「この薬を飲むと吐き気がするかも」という注意付きで処方を受けました。妻がその薬を飲むときつかり一時間後に吐くのです。医院に連絡すると「赤い錠剤を除いて飲んでください」との指示。指示に従うと吐き気

はビタリと治まりました。韓国は注射もスゴイです。予防接種などは腕に打ちますが、風邪で病院に行くと「お尻を出してください」と言われます。お尻に注射を打たれたのは幼稚園の時以来でした。また、所長補佐でソウルに来たばかりのころ、風邪気味の妻はお尻に注射を二本打たれて失神してしまいました（お尻に打たれたショックか、注射の効き目か原因は不明）。その時は連絡が病院→大使館→クリアソウル事務所とやってきたので仕事を早退して妻を迎えに行きました。やはり在留届を出しておいてよかったです。

先進医療技術

ソウルは大都市ですから、日本の地方都市と比べれば病院や治療方法などの選択肢が多いといえます。実際にソウル事務所の健康診断を実施している「メディスキャン」という病院では胃カメラを飲む時に「睡眠内視鏡」が選択できます。これは、血液検査を行った際に刺した注射針をそのままにしておいて、後にそこから「静脈麻酔」を



↑メディスキャンで問診中のひとコマ



↑メディスキャンで治療中

注入して、一〇〜二〇分間眠っている間に胃透視を行うものです。胃カメラが無意識のうちを終るのは気楽で、胃カメラが苦手な方には特にオススメです。

最近では、日本で保険の効かない分野の治療をわざわざ韓国に来て受ける日本の方が多くなっています。例えば、視力回復治療のレーシックや歯科治療、美容整形（シミ・ほくろ取り）などです。私の妻は実際に歯科治療（被せ歯治療）とシミ取り、眉毛・アイラインの刺青をやってみて、内容と価格に大満足のようなのですが、それは事前に現地日本人ネットワークで評判のよい医院を選んで行った結果ですので、一般観光客の方はきちんと医院を選んで行かないとトラブルもあります。お気をつけください。

おわりに

以前、アメリカで盲腸の手術をしたら何百万円も請求された話を聞いた時はビックリして「海外渡航には海外旅行傷害保険が絶対必要だ」と思ったのですが、韓国で生活してみても実感は思ったより医療費は高くないということです。出張で何度も韓国に来られる方はクレジットカードに付帯の海外旅行傷害保険で十分だと言われる方がほとんどです。旅先では食べ過ぎによる腹痛や転倒してのケガなどが多い現状を見ると、保険の内容よりも現地での行動に注意を払ったほうがよさそうです。